

令和5年度 第1回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和5年7月3日（月）15時～17時10分

2 議題

- (1) 北九州市立高等学校の魅力向上にかかる令和4年度の実績
- (2) 「市高の魅力向上にかかるアンケート調査結果」
- (3) 新学科「未来共創科」の周知状況
- (4) カリキュラム等検討の進捗

3 構成員の主な発言

- ・市高で一番変えないといけないのは、生徒の「エージェンシー」に任せるような風土を作り直すこと。カリキュラム検討などの前に、これを「学校改革」として取り上げるべきであり、学校の在り方を皆で考えていくことが非常に大事である。
- ・「エージェンシー」を重視した生徒への接し方に変えていかないと、探究活動が成り立たないし、やわらかい雰囲気新しいことを生み出すようなことも難しい。
- ・ある意味で、商業高校が普通科に近づいている。どこの学校も探究に力を入れており、地域との連携が進んでいる学校もある。ただ、小論文指導のような、受験に通して、合格者を出すところが評価の対象になってくると思うので、そういう「受験体制」もしっかりカリキュラムに落とし込むべきだと思う。
- ・未来共創科のミッションのPRはもとより、情報ビジネス科との差別化をしっかりと中学生にアピールできなければ、どちらの学科に進むべきか、中学生が迷うことになる。よく検討するべき。

4 まとめ

- ・今回のアンケート調査項目「あなたはこれからの時代にどういった学びが必要だと思いますか？」の質問に対して出てきた回答（コミュニケーション力・協調性、情報処理・活用、問題発見・解決など）は、どの切り口で、誰に聞いても出てくる答えだと思う。
- ・また、市高の「校則」や学校の「風土」「文化」を変えていくことは大事なテーマとの認識だが、一番難しいテーマであるとも思っている。それは、これまで培ってきたもの（伝統、風土、文化など）が、あまりにも大きすぎるからである。
- ・市高に入学した動機の第1位は「部活動」との結果が出た。これもいわば市高の「風土」「文化」であり、部活という「特色」が大きな比重を占めているのは事実である。そこから「学び」に大きく寄せていくことを本気でやらなければならないのだということを、本日の協議を経て、改めて実感したところである。
- ・これからの時代に生きる若い人たちに必要な力をちゃんと付けさせられる学校になること、「市高なら力がつく」ということを胸張って情報発信していけるようにしていくこと、「生徒の自主性に任せること」、これこそが本質である。
- ・我々大人が変わろうとしている姿勢を知ってもらうことも大事である。

令和5年度 第2回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和5年8月23日(水) 10時00分～12時10分

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) カリキュラム等検討の進捗
- (3) 外部人材との連携状況
- (4) スクール・ポリシー案
- (5) 次年度以降の入学者選抜案

3 構成員の主な発言

- ・ 一見自由にやらせているようでも、結果的に「ザ・授業」になっては意味がなく、こんなことでは日本から起業家をたくさん排出できるわけがない。外部と連携するにしても、いわゆる「過去の人たち」、「これまでのネームバリュー」ではなくて、今から市高がやろうとしていることと合っているかどうかでタッグを組む組織を選ぶべき。
- ・ 大学入試に対応したカリキュラムになっていなければ、せっかく探究的な学びに取り組んだとしても、数字として結果が出てこないのではないか。
- ・ 探究と基礎学力はトレードオフでないとしても、探究と部活動はトレードオフの関係となる可能性が極めて高い。地域に価値を生み出す、地域から認められる学校になろうとするのであれば、部活動と同じくらい外に出ていかなければ地域からは認められないと思う。
- ・ スクール・ポリシー案のうち、何が新しい側面で、何が従来どおりなのかの違いも含めたPRをするとよいと思う。
- ・ 公立高校の特色化選抜については、「評定値ありきの単なる青田買い」のようにも思えるので、独自入試をやるとか、AP・CP・GPがつながるような入試を考えてほしい。入試改革をドラスティックにやることで学校が変わることは間違いない。
- ・ 評定値を思い切って低く設定して、面接で特技や「〇〇をしたい！」という情熱を示せる生徒を選抜するのがよいのではないか。市高の多様性を広げるためにも、「学力ではない特色」で集めるべきではないか。
- ・ 他の高校にはない特色を出さなければ、「市高の魅力化」は成功しない。しかし、その特色が学力や進学率、就職率、資格取得率などなら、既存の県立高校に優ることは難しい。市高なら「なりたい自分になれる」「どんな夢であっても自分の夢を全力でサポートしてくれる」と思ってもらうのが重要である。しかし、自前で直接サポートすることにこだわる必要はない(「自力でやる」ことだけがサポートすることではない)。
- ・ 進学率などの数値目標は、市高の教諭陣の目標になったり、保護者が一時的に安心したりするだけの要素であって、一人の市高生徒からすると何の意味もない。進学先や就職先の「有名度合い」よりも、オンリーワンの自分を作るサポートの方が生徒のためになるのではないか。

令和5年度 第3回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和5年11月28日(火) 10時00分～12時00分

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) 高校魅力化評価システムの結果
- (3) スクール・ポリシー
- (4) カリキュラム等検討の進捗

3 構成員の主な発言

- ・高校魅力化評価システムの結果を見ると、生徒は「何か市高変わったよね」と実感しているはず。学年によって結果が分かれているものもあるので、生徒との関わりなどを見つめ直す一つの材料としていくとよいのではないか。特に課題と思われる回答については、その回答を選んだ理由を確認したほうがよいのではないか。
- ・客観的な視点として、保護者が市高で学ぶ我が子をどう思っているのかを調査するのもよいのではないか。保護者のアンケート結果も生かした広報にもつながるのでは。
- ・数値で成果が見えるものと、定性的にエビデンスが示せる形のものがあるのもよい。
- ・今回の調査結果について、教職員のほうから学校や生徒の様子を確認・分析して、この結果の根拠を見出すことが必要だと思う。また、この結果を踏まえて生徒たちにグループディスカッションさせてもよいのではないか。
- ・せっかくスクール・ポリシーを決めても、きちんと実行できないといけない。飾ってあるだけで、誰も知らない状態はダメで、一つ一つの教育活動や生徒との接点の中でこのポリシーが生かせるように、教職員がチェックし合いながら、日々確認しながら進めなくてはならない。
- ・ポリシーの中に、「チーム形成」のような言葉がかなり出てくる。これはこれで大事だが、これまでの日本では、チームに溶け込んで依存する、仲良くなって全体調和すればよいとなりがちであった。しかし、アントレプレナーシップなどを考えたときには、我を通してやらなくてはならない場面も出てくるはずなので、その塩梅が難しい。
- ・ミッションやポリシーをホームページなどに掲げるだけでは伝わらない。「こんな生徒を求める」という最大の意思表示が明確にできるのは入試のときである。「市高はこんな生徒を求めている」が段々浸透してくれば、それが最終的にはブランドになってくるはず。
- ・選ぶ側の面接官が、APや市高が目指すことの共通理解をしっかりとした上で選抜に臨まれることが大事である。
- ・コミュニケーション重視型では、「発表ではなく、対話力を評価する」と明確に伝えたほうがよい。中学生たちが市高のポリシーを踏まえて表現する内容を、しっかり聞いてあげられるようにしてほしい。
- ・評定値的に超進学校を目指すような生徒であっても、「市高で学びたい」と思えるような学校になってほしい。そういう学校づくりにつなげていってほしい。

令和5年度 第4回 市高魅力化コンソーシアム 議事要旨

1 開催日時 令和6年1月30日(火) 10時00分～12時00分

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) ワークショップ「これからの高校入試の在り方について」
- (3) 令和5年度の振り返り

3 構成員の主な発言

- ・先生方がこだわって作ってきた成果が入試という形で明確に出てきた。改善しながら続けていくことが大切。意欲を持って入学してきた生徒の期待にどれだけ応えられる学校にするかが今後重要になってくる。よい教育を提供して、しっかり社会に送り続けていくことをやり続けるとブランドや評判がついてくるのではと強く感じた。
- ・高校のあり方、入試もここまで変わっているのかと驚いた。実学教育というか、自分で考える力、プレゼン力、説明力向上の一助となるよう、探究心をより生徒本人の身になるような形で教育をしていただけたらと思う。探究は、過程がとても大切である。
- ・経済もよくない、政治にも不安があり、大きな災害も起きている。財政不安、人口減少などの危機的な状況下でどこに力を入れるべきかと言えば教育だと思う。教育に希望を託して、10、20年後に社会を救ってくれたらと思うが、その「救ってくれる人」は、ただ勉強ができる子だけではない。多様性が大事である。高校入試についても、「生きているだけで合格」でよいのではないかとも思う。問題は、その後どういう学習、課題への取組をしていくか。色々な子を育ててほしいし、市唯一の市立高校という特色を生かして、県立や私立の高校にできないことをぜひやってほしい。今やってみて失敗したら、次の年に考えればよい。とにかくやってみることが大事。周りの市の企業、地域の方なども頼ってほしい。
- ・学校が変わろうとしていること、その特色が市民にもはっきりと見えるようになっていて、市内で一番期待を集めていると感じた。社会に出てからいろんな方と関わる中で考えが豊かになっていくことを考えると、入学させる生徒も、ある意味で揃っている必要はなくて、市高に行くといろんな考えの子がいて、考えが豊かになって卒業できた、というのがゴールとして掲げられると素敵なのではないか。
- ・正しいことを、面白くしていくのがよい。枠組みだけ整えて、中身が伴わないと意味がない。最初だけぶち上げてそこから尻すぼみになってもいけない。働いている職員や、何より先導している管理職がモチベーションを高く維持していくことが大切なので、面白い要素、モチベーションが上がる要素が必要だと思う。この魅力化もそうだが、色々な企業ともコラボしているので、もっと外に出して話題作りをしていくとよい。最先端の動きに関わっていると思うことが、職員が楽しく働くことにもつながる。
- ・他の県立高校と比べて大きく変わったのは、毎週3コマ探究活動をしていること。その時間を確保するために教科の先生方と交渉できたことはすごいことである。大人の「高校魅力化評価システム」の結果では、「学習意欲が高まった生徒がいる」ことを多

くの先生方が感じてくれていた。大学生や企業が授業等に入ったりすることを経験して、先生方の「自身の資質・能力の向上につながっている」という回答が倍増しており、他の先生たちにも思いが広がった1年だったのではと、嬉しく感じている。

- ・せっかくこれだけ入試改革をして、様々な工夫をして入ってきた子供ががっかりすることがないようにしないといけない。意欲をもって入ってきた子の意欲が減退するような教育をしていたらもったいない。教師が変わるしかない。いかに面白い授業をやっていくか、期待以上のものを子供たちが学び取れるかどうか、ということにこれからはかかってくると思う。ぜひ先生たちの意識と学校全体の雰囲気、体制、教育活動の内容そのものをいかにユニークにしていくかということのを常に研究し、模索していくような取組を続けていくとよい。
- ・コンソーシアムは昨年度に始まったが、最初の頃は正直「大丈夫だろうか」と心配していた。その時点から今を考えると、すごく具体的な入試の話も出てきて、感銘を受けた。今年度はスクール・ミッション、様々なポリシーを決めるところから、入試に落とし込むところまで、帰納的に行われている。

管理職の皆さんには、現場の先生方にいかに納得して動いてもらうかという点にご苦労があるかと思う。それを民間の校長先生が来られて、今市長も似た雰囲気を持っている。ひょっとすると、北九州市の市高モデルというのを全国的に発信できる時があるのではないかと考えている。今回、特に特色化入試の具体的なところが出てきて、毎年ブラッシュアップしていくものであるので、準備は大変だと思うが、頑張っしてほしい。

4 まとめ（北九州市立高等学校）

- ・ご心配をおかけしてきたが、回を重ねるごとに、自分自身もどんどん楽しくなってきた。
- ・特色化入試の際には、生徒がどんどん集まる様子や、試験の前の生徒の後ろ姿を見ていて、涙が出る気持ちだった。今までの志望動機とは違うと感じた。選考は本当に難しかったが、自分たちも、生徒たちも成長できた2日間だったのではないかと思う。
- ・いよいよ、期待をもった生徒が入ってくる。一方、ミッションとかポリシーに手触り感がないと感じている。生徒に対して、「こう考えている」というところが伝わりにくい。これを一言で表して、「こうする」「こう考えている」というところに共感してくれる生徒、仲間を増やしていきたい。そして、これからの市高を作っていきたい。これまで、忙しく動いていたが、本当によい学びをしっかりとやって、よい学校にしていきたい。
- ・一方で、これは「未来共創科改革」ではない。「市高改革」である。情報ビジネス科でも色々な課題が明らかになり、全体としてこれから市高をどうしていくかということが分かってきたので、いろいろな形で相談させていただきたい。いろいろなサポートをいただき、感謝申し上げます。引き続き、よろしくお願ひしたい。

令和5年度 市高魅力化コンソーシアム 構成員名簿

(区分内で五十音順・敬称略)

◎：座長 ○：副座長

区分	氏名	所属
学識経験者	◎ <small>なか お もと</small> 中尾 基	国立大学法人 九州工業大学 工学研究院基礎科学研究系 教授
	<small>まなべ かずひろ</small> 眞鍋 和博	公立大学法人 北九州市立大学 地域創生学群 教授
企業関係者	<small>やまい たかひろ</small> 山井 高広	日本政策金融公庫 北九州支店 国民生活事業 事業統轄
	<small>ひらはた さとる</small> 平島 暁	九州電力(株) 北九州支店 副支店長 兼 企画・総務部長
民間関係者	○ <small>ふくいずみ あきら</small> 福泉 亮	Nature & KOKOROZASHI アルビレオ 代表 北九州市立ユースステーション スタッフ
	<small>なかじ こうた</small> 中治 航太	GZ キャピタル株式会社 北九州イノベーションセンター事業部
	<small>ひだ ひかり</small> 肥田 光	有限責任監査法人トーマツ ジュニアスタッフ 前・ReCITAL 株式会社 福岡支店長
行政関係者	<small>たかまつ じゅんこ</small> 高松 淳子	北九州市教育委員会 学校教育部長
	<small>たまる のりこ</small> 田丸 陸子	北九州市教育委員会 学校教育部 教育振興担当課長

カリキュラム等コーディネーター

北九州市立大学 地域創生学群 准教授 ひろかわ ゆうじ
廣川 祐司

探究学習支援コーディネーター

西南女学院大学 非常勤講師 おおば まさみ
大庭 正美

広報魅力化コーディネーター

YK STORES (株) 代表取締役 よしだ かずなお
吉田 一直

令和5年度 第1回

北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 議事要旨

1 開催日時 令和5年7月24日(月) 15時~17時10分

2 議題

- (1) 北九州市立高等学校の魅力向上にかかる令和4年度 of 取組
- (2) 市高の魅力向上にかかるアンケート調査結果
- (3) 新学科「未来共創科」の周知状況
- (4) カリキュラム等検討の進捗
- (5) スクール・ポリシー案

3 委員の主な発言

- ・中学生の高校を選ぶ理由の上位は「学力」と「部活」だが、学習内容で選んでほしいという市高の思いはよくわかった。多岐に渡るアンケート結果の焦点化が大変との意見もあるが、これまで意見を言う機会がなかった人たちが、一度思いを発散する機会としては貴重なプロセスであったように思う。
- ・調査結果のうち、意外だったこと、想定外だったことをさらに深めて、カリキュラムに落とし込んでいくことも有効ではないか。
- ・子どもはどうしても自分の成績で高校を選びがち。「あの高校でこんな学びがしたい」と言って高校を選ぶ生徒はまだ少ない。そのため、「市高ならこんなことができる」「大学も変わっている」「インプットだけでなく、アウトプットが大事な時代」などをPRして、そんなカリキュラムが作れたら、受験生も増えていくのではないか。
- ・高校改革に向かっている市高への期待感はあると思うが、同時に、「普通科」という名前ではない、つかみどころのないものに対する不安感はあると思う。我々はもちろん、保護者も昭和の価値観を引きずっているので、アウトカムを明確にしていくべき。
- ・「大学入試が変わってきた」と言われても実感しづらいものでもある。危機感や時代の変化を、どれだけのリアリティをもって8月の説明会で伝えられるのかが気になった。
- ・探究的な学びをすることで基礎学力が弱まるのではと思われるかもしれないが、トレードオフ（一方を尊重すれば一方が成り立たない）ではないということをよく説明すべきだし、進学実績だけを重視する必要はなく、他校の好事例を紹介することも効果的ではないか。
- ・「生きる力」と言っても、目には見えない。教職員のモチベーションを上げるためにも目指すところ（数値目標）が必要ではないか。数値目標は「ノルマ」ではない。次の対策を打つための有効な手法の一つである。
- ・数値目標にかかるご意見はあったが、進路に個別に向き合うことについては%では示せないし、今の段階では中途半端な数字にするべきではない。そんな数字は立てたくないし、立てるべきではない。まずは「圧倒的に多様な学びの提供」「徹底的に個別最適なサポートをすること」の2点について、全力を尽くしたい。

令和5年度 第2回

北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 議事要旨

1 開催日時 令和5年10月6日(金) 10時~12時

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) カリキュラム等検討の進捗
- (3) 外部人材との連携状況
- (4) スクール・ポリシー案の共有

3 委員の主な発言

- ・ナイトスクールやPVは非常に新鮮で、「何色にも染めてよい」というメッセージなどに対するデマンド・サイド(保護者、中学生など)からの一定の評価もあるようだが、不安感も垣間見える。サプライ・サイド(市高)が「なりたい自分に出会う場所」として何を提供できるのかまでは見せ切れていないような印象も受ける。
- ・カリキュラム・マネジメントの基本は、内容系列と条件整備系列である。総探1単位にプラスして学校設定教科2単位設定するとの話があったが、その3単位だけで何かが変わるわけではない。その3単位と他の教科とのクロス・カリキュラムによる内容系列が重要である。条件整備系列では、令和6年度に向けて支える先生方の校務分掌、配置など、意識がどう変わっていくかを整理してほしい。
- ・斬新かつオリジナリティがあると思ったのは、生徒が学びの運営リーダーやプロジェクトリーダーを担うという点である。大人が逐一指示するのではなく、カリキュラムの中身も生徒とともに考える、リーダー同士で解決策を話し合う、リーダーのリーダーを育成する、「リーダーになりたい」と手挙げするような取組にもつなげてほしい。
- ・先生方から就職先を勧められて入社したものの、合わずに辞めていく友人の姿を見てきた。そういう意味でも、ぜひ多様な学び、様々な人との出会いを創出して、生徒が自分の進路を選べる、選択できるようにしてほしい。
- ・「シン・イチリツ」の強みや、一言で表現できるよさ、特色が何かを知りたい。これまでの市高は、「部活をしに行きたい学校」でしかなかったような印象である。卒業生が胸を張れる学校にしてほしいし、「なりたい自分」という出口をぜひ保証してほしい。
- ・外部との連携、出会いというのは、異質な情報に触れることなどにより、内側が変わっていく一つのきっかけにはなると思う。連携には、戦略的なパートナーシップもあるし、資源の不足分を補える連携もある。しかし、連携にはそれなりの負担も伴うし、単にやればいだけではないので、目的や意図などに応じて整理したほうがよい。
- ・グループディスカッションやグループで学ぶ意欲を見て採用するのはよいと思う。人とのグループワークや対話に意欲を感じる子を入口の段階でまず採用して、知識の注入についてはその後でよいと思う。

令和5年度 第3回

北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会 議事要旨

1 開催日時 令和6年1月19日（金）15時～17時

2 議題

- (1) 前回会議の論点整理
- (2) 高校魅力化評価システムの結果
- (3) スクール・ポリシー
- (4) カリキュラム等検討の進捗
- (5) 令和6年度入学者選考試験

3 委員の主な発言

- ・「高校魅力化評価システム」の活用は、自分の学校の特徴をどう捉えるかの指標にはなる。満点でなくてよいし、凸凹があるのは自然なことである。今回の結果は前回より伸びているので、手応えを感じたと思うし、生徒が体感していることの表れだと思う。ただ、今後もずっと右肩上がりとはいかないもので、何を見ていくか、下がったところ、低いところを埋めていく方向なのか、魅力化して得意なところを伸ばしていくのか。それらを外部の第三者の点検を受けながら、確認していく機会が必要である。その中で、存在している組織の空気、職員間の意識をどう変えていくかも重要になってくる。
- ・目標値は、毎年状況や実感に合わせて設定していくとよい。見える生徒の様子を感じながら数値と照らし合わせて判断する必要がある。
- ・スクール・ポリシーや学校の存在理由が同床異夢にならないように、内部・外部を含めて関係者が共有していくことが大切である。完全なスクール・ミッション、ワンベストがあるわけではない。これまでの歴史を踏まえて変わろうとしたときの目指す方向が示されている。これを、引き続きいろんな場で議論し続けることが大事。
- ・生徒が出演したPVもよいが、市高がどんなカリキュラム・ポリシーやスクール・ミッションを掲げており、どんな授業があって、どんなチャレンジができるのか、どんな先生がいるのか、どのように地域とつながっているのか、どのように生徒が輝いているのかなど、具体的なイメージが発信されるとよい。
- ・入試での選抜方法による生徒の違いなども今後見ていけるとおもしろいのではないか。最初の入り口は違っていても、混ざったときに、どのグループがマジョリティーになって市高を引っ張っていくのかなども見ていくとよい。
- ・机の上ではなく、地域を周って見て感じたことから問いを立ち上げようとしており、以前の市高よりも一歩前進したと感じた。
- ・場をつくっていけば子どもたちは伸びる。子どもたちが変わってくことで、応援団が増えてくる。我々のすることは可能性を見出して、場を作っていくことである。これまでの学校は、答えをショートカットで導き出そうとしてきた。そうではない課題に向き合っていくことが社会に求められている。そんな生徒たちの姿を大人が見て、応援したくなるような、よい循環を作って発信して欲しい。

令和5年度
北九州市立高等学校の魅力向上事業にかかる運営指導委員会
委員名簿

(区分内で五十音順・敬称略)

◎：委員長 ○：副委員長

区分	氏名	所属
学識経験者	◎ <small>もとかね まさひろ</small> 元兼 正浩	九州大学大学院 人間環境学研究院 教授
企業関係者	<small>ながの けい</small> 永野 恵	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 政策研究事業本部 公共経営・地域政策部 副主任研究員
	<small>はたの たかし</small> 羽田野 隆士	北九州商工会議所 専務理事
民間関係者	<small>あそう こうじ</small> 麻生 浩二	北九州市立高等学校 PTA会長
行政関係者	○ <small>かい こういち</small> 甲斐 孝一	北九州市立中学校長会 組織部長 北九州市立富野中学校 校長

カリキュラム等コーディネーター

北九州市立大学 地域創生学群 准教授 ひろかわ ゆうじ 廣川 祐司

北九州市立高等学校 インタビューシップキックオフ



よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう
一般社団法人 福岡県中小企業家同友会



北九州市立大学
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU



北九州市立大学
地域創生学群
REGIONAL DEVELOPMENT

北九州市立高等学校 インタビューシップ

- ① インタビューシップって何？
- ② 具体的な取組について
- ③ インタビュー内容について
- ④ ミッション

① インタビューシップって何？



北九州市立高等学校

地元企業の経営者や社員の方に
インタビューを行い、
各々の「働くこと」についての
目的や考え方を学び、
自分の社会人としての将来に
つなげるプログラム

② 具体的な取り組みについて



北九州市立高等学校

【取組内容】

地元企業に生徒が1人で、2日間企業を訪問し、経営者や社員の方にインタビューを行い、学んだことをまとめ、発表する。

「1人で訪問」することについて

⇒ 担当する企業の取組がどのように見えるかは、
あなたのインタビューにかかっている。

企業の皆さんは、あなたのインタビュー後のまとめ、発表で
どのように伝えてもらえるのか、とても楽しみにしている。

「1日でなく、2日訪問」により

⇒ 少しでも企業になじむであろう2日目の訪問では、もっと深く質問
することができる。その質問により、

より深く「働くこと」について、企業の皆さんの働くことについての
熱い思いを知ることができるようにする。

③ インタビュー内容について



北九州市立高等学校

【インタビューの主な内容のイメージ】

- 自社のこと（社名の由来、創業の想い）
- 経営理念（会社の目的） ○ 会社の目標 ○ 働く目的
- 会社での役割 ○ 仕事の面白さ
- 仕事を通して成長を感じたこと ○ 5年後・10年後の目標・姿
- 働きやすい点 ○ 北九州市内の企業で働くことの意義 . . .

※その他、得た回答について、「その理由」を聞いてみよう！「働くこと」ってどういうことなのか、知ることができるかも！？

※働くことへの熱い思いを引き出すには、どうすればよいのだろうか？

④ ミッション



北九州市立高等学校

働く大人の

かっこよさ 熱量 人生観

をインタビューシップを通して
体感し、語ることにより、

**働くことの魅力・ワクワクを
多くの人に届ける！**

令和5年度北九州市立高等学校インタビューシップ

実施のしおり



1年 組 番

氏名 _____

ON^{ew}
KITAKYUSHU City
High School

目 次

1	インタビューシップの目的	P3
2	実施中の注意事項	P3
3	新型コロナウイルス感染症等への対策について	P4
4	警報時等の対応	P4
5	事前作成用資料等	P5
6	インタビューシップ事前、事後 予定表	P7

1 インタビューシップの目的

- ① 地域の活性化に貢献している企業の状況や良さを理解し、学んだことをまとめ、保護者や企業の方など多くの方に伝える。
- ② 個人が一企業の紹介に責任を持つことで、高校生として企業の地域活性化に貢献する資質・能力を身につける。
- ③ 企業を訪問する中で、企業の良さを知ろうとする積極的な活動を通して、主体的に学ぶ姿勢を養う。また、企業の方から「企業理念」について質問し、地域活性化の夢や希望など「働くことの良さ」を学び・感じる。
- ④ 経営者や社員の方にインタビューを行うことで、自身の「働くこと」について様々な視点で深く考える。

2 実施中の注意事項

(1) 実習態度について

- ① 訪問企業の方々に対し、学習するものとして、礼儀を守り、すすんで挨拶をする。
- ② わからないことがあれば積極的に質問する。
- ③ 訪問企業の場にふさわしい声の大きさ、話し方をする。敬語を使用する。
- ④ 訪問中は生徒であると同時に社会人としてみられるので、責任ある行動をとる。
ペンとメモ帳を持参し、指示や気づきなどを記録する。タブレットを持参し、写真を撮る。
(ただし、訪問先の方に許可を得ること。実習中の本人の写真も撮ると良い)



(2) 利用者(客)への接し方について

- ① どの利用者(客)に対しても、公平に接する。
- ② 利用者(客)への言葉遣いや態度に気をつける。
- ③ 利用者に(客)に依頼されたことは、必ず指導者に相談して対処する。
- ④ 利用者(客)からの贈り物は一切受け取らない。困ったときは、丁寧に受け取り、指導者に対処方法の指導を受ける。

(3) 服装、身だしなみ

企業訪問中、企業に来られる方(取引先の方やお客様など)と接することがあることを踏まえ、服装(原則、制服着用※)、身だしなみ(学校生活と同様)、態度については、清潔かつ感じよい態度で臨むこととする。

なお、訪問先での携帯電話の使用については、学びの場であることを踏まえ、控えること。

※ 企業から、服装の指定があった場合には、その指定に従うこと。

(4) 事故防止について

- ① 指導者の指示に従い、安全に気をつけ無理のないよう行動する。万一事故が起こった場合は、直ちに指導者に連絡し指示を受けるとともに、学校にも連絡する。
- ② 施設の設備、備品を破損した場合は、すみやかに指導者及び学校教員に報告し、指示を受ける。

(5) 情報の取り扱い

- ① 利用者(客)に関連して知り得た情報は、必要に応じて速やかに事業主に報告する。
- ② 実習中に知り得た利用者(客)に関するすべての情報については他言してはならない。

(6) 実習時間について

- ① 実習時間は厳守する。実習開始時間の5分前までに実習できる体勢を整えておくこと。
- ② やむを得ず欠席及び遅刻する場合は、実習先と学校に連絡をする。

<連絡方法>

実習先	電話連絡 ※事前に電話連絡先と連絡をする担当者の方を把握しておくこと
学校	Teams のインターンシップ専用チャンネルに連絡すること <連絡内容> 〇年〇組〇番 〇〇 〇〇(←生徒名) 実習先 〇〇 実習連絡先 〇〇〇—〇〇〇〇 実習先担当者名 〇〇 (←担当者氏名) 欠席または、遅刻理由 〇〇のため欠席 ※必ず、「 」をメンションすること (@)

- ③ 実習開始までに実際の交通手段を使って実習先までの経路・所要時間を確認しておくこと。
(遅刻の理由の大半が道に迷った、場所がわからなかったなど)
- ④ 実習中、体調が悪くなった場合は、早めに実習担当者及び学校教員に申し出る。

(7) その他の持参物について

保険証(のコピー)を必ず持参すること

3 新型コロナウイルス感染症等への対策について

- (1) 実習の際は基本的な感染対策に注意しつつ、発熱や風邪等の症状がある場合は訪問企業にその旨を報告し、対応に関して指示を受ける。
- (2) 実習中のマスク着用に関しては、訪問企業の指示に従う。
また、実習が中止になった場合は、その旨を必ず Teams の「 」で報告する。

4 警報時等の対応

実習当日の朝7:00の段階で警報(大雨・洪水・暴風のいずれか)が出ている場合はその日の実習は中止とする。

その際、実習先に必ず電話を入れて欠席の旨を連絡すること。(始業時刻の15分前までに。それに間に合わなくとも可能な限り早い内に)

また、突発的な災害が発生した場合は、無理はせず、必要に応じて実習を控えること。実習を控えると判断した場合については、Teams「 」でその旨連絡をすること。

令和5年度北九州市立高等学校インタビューシップ事業所 事前調査

氏名	1年組番		
市立高校	電話番号 (093)881-5440		
実習先	事業所名		担当者
	住所	〒 場所確認OK?	
	電話番号	()	
	E-mail	@	
通勤手段等 (時間)	・通勤手段: (自宅からの所用時間:)		
実習期間	令和5年 月 日()、 月 日()		
実習時間 集合場所	・何時に ・どこに集合		
服装・着替			
持参物			
期間中の主 な業務(わか ればでよい)			
事前に準備 その他注意	事前に準備すべき事 その他注意すべき事		

令和5年度北九州市立高等学校インタビューシップ 事前学習

氏名	1年組番
実習先	
事業所、団体がしている活動。それらの活動理念など。	
質問内容を考えておこう!	
実習目標(3つ)	

インタビューシップ事前・事後 予定表(案)

日時	内容
11月 24日 (金) 13:30~14:30	・インタビューシップのしおりの配布と説明 ・訪問企業決定・周知
11月 30日 (木) 17:00~18:00	・しおりp5~6事前調査の記入 …企業への連絡、企業までの交通手段、企業調べ ・三木高校とのオンライン交流会準備
12月 4日 (月) 17:00~18:00	【香川県立三木高校とのオンライン交流会】 …香川県立三木高校のインタビューシップをしての成果発表、質疑応答など
12月 8日 (金) 16:00~17:00	・マナーの確認 ・企業に連絡し、事前打ち合わせを行う
12月11日 (月) 17:00~18:00	・「働くとは」について、グループディスカッション ・インタビューの心得
12月15日(金) 放課後 30分程度	・事前指導(最終確認) ・インタビューシップ後の冬休み中のまとめについて

冬休み

・インタビューシップ実施

日時	内容
1月 12日(金)	インタビューシップの経験交流(パワポを使つてのプチ報告会)、 成果発表会について説明、
1月 19日(金)	・ポスター作成の準備開始
1月 26日(金)	・ポスターまとめI(ポスター作成について) ①情報の整理、②レイアウト、③文面と図の作成 ・ポスター作成作業
2月 16日(金) ※学年末最終日	・ポスターまとめII(ポスター下書き完成、ポスター作成作業)
2月 22日(木)	・ポスターまとめIII(ポスターの発表方法、個人・グループ練習)
2月 26日(月)	・ポスターまとめIV(ポスターの発表方法、実践練習) ・会場の配置図、会場設営の手順、準備と後片付けについて (役割分担)、イメージづくり
3月 8日(金)	・成果発表会前日準備
3月 9日(土)予定	・成果発表会(自分の言葉で、相手の目を見て伝えることができるように)

※予定は変更する可能性があります。その際は Teams にて連絡をしますので、確認をしてください。